

ピクニックというテーマに対して、私は「人」「時」「金」というキーワードを設定しました。これらは全て、限りがあり、無限ではありません。だからこそ、その中で楽しむ方法、術（すべ）を見つけるべきだと思います。楽しくなければ生きていく意味はない。好奇心、探究心が生きる源だと考えるからです。ピクニックは私の日常です。少しでも「一歩を踏み出すキッカケ」「人生のガイド」としていただけたら、幸いです。

逢いたい人に逢いに行く

私は癌らしい

達成感に浸る

最終バスの時刻は？

ドラマチックな日常

即決！

女心と秋の空

逢いたい人に逢いに行く

2021 12 / 17

人生にトラブルはつきもの。

コロナなど誰が予測できただろうか。

行ける時に行く。

思った時が行動する時。

私は新幹線のチケットを購入した。

フラメンコのステージを見に行く。ダンサーの高橋英子さんと会ったのは、スペインのグラナダ。私の海外での滞在場所は、オーナーが日本人でキッチンは共同で使うアパートメントタイプを探す。そこで英子さんと私は会った。彼女は午後にならないと起きてこない。あんなにたくさんのピップエレキバンを首に貼ったおばさんを私は初めて見た。何か、きつい仕事をしているのか？

なんとなく、その質問は直接できずにいた。

一週間くらい経ったある日、フラメンコのステージに誘われた。英子さんは有名なフラメンコダンサーであ

る事がわかり、首のピップエレキバン之谜はとけた。

「日本では、大会の審査員とか会議とかばかりでつまらない：踊りたいから、グラナダに住むのよ」と英子さんは言った。

知り合った頃は、日本よりスペインの方が長い滞在だった英子さん。私より三歳歳上だが、そのパワーに圧倒された。

その人のステージが見たい。

私は癌らしい

20202 / 3

一、ポリープをきれいにとったから大丈夫。とったのは悪性だった。だから治療した方がいい。今は数値に問題はない。どこにも癌はない。いや、隠れているかも。担当医は治療する必要があると言ったが、果たしてそうだろうか。

二、きつと、一カ月安静にしている事が私には必要なのだろう。

三、世の中は新型コロナウイルスで大騒ぎだが、私はいちばん安全な病院にいる。もっとも寒い二月だし、病院で手厚い看護を受けるには良いタイミングなのかもしれない。

四、入院中は規則正しく起こされ、食事が提供され、電気が消されるまでは、頭も身体も自由。この時間をうまく使おう。

五、入院生活を楽しもう。

午前中に入院の手続きを済ませて病室へ。四人部屋

の私のベッドは窓側。雪がちらついているのが見えて、ちよつとした旅行気分。病院の売店に売っていた恵方巻。今日は全国的に節分だ。もしかしたら、夕食は、恵方巻き？

いよいよ治療開始。

看護師さんはゴーグルにいつもと違う色の手袋。普通の点滴とは違うんだなあ：必ず二人で確認をしながら点滴の速度を変更している。今回は化学療法での治療とのこと。様子を見ながら、ゆっくり薬が落ちてゆく。人差し指には心電図の計器。このまま昼食をとった。点滴をつけたままトイレにも行ける。

私はまだまだ余裕。

残念ながら、夕食は「太巻き」だった。恵方巻とは言わないなあ。でも、節分の豆のオマケが付いていた。私の歳までは入っていなかったけれど。

無事に第一日は終了。

達成感に浸る

2021 8 / 30

夜中にスマホをいじっていて、見つけた募集要項。締め切りは、二十八日の日曜日。お、作成日数は、あと五日。間に合うな。これやろう。ポートフォリオの提出。ポートフォリオって何だ？

久しぶりにパソコンとにらめっこ。仕事をしていた頃は、windows。退職して、MacBookに変更。慣れるまで大変なので、いつも途中までは頑張るけれど、なかなか完結しないままになっている資料。これは、今まで活動してきた事を整理する良い機会だと思った。それから、時間をかけて作成。コンビニに行き印刷して、添削と確認を繰り返して、本日完成。メールで無事送信終了。
久しぶりの達成感。ヤッター。

昨年、着物の着付け大会の応募も締め切り数日前の決断。速達で応募用紙を送った事を思い出した。

いつも、突然やってくるタイミング。このタイミングは絶対に掴むべき。「できない」と言う言葉は知らない。あとは、面接。楽しみだなあ。面接かあ。久しぶりだなあ…なんでも聞いて、聞いて、聞いて、聞いて。

最終バスの時刻は？

2021 10 / 23

寒いので、気合いを入れてお風呂に行く事にした。六十五歳以上の秋田市民は、申請すれば、一区间百円でバスに乗車できる。そして「クアドーム・ザ・ブーン年間パスポート」を持っている。バス停まで歩く。寒くても、青空も風も清々しい。
あれっ？乗客が少ない…というか、私だけ？

貸し切り。なぜ？気になりながら、現地に到着。
バスの運転手さんが、「今日は休館日。一カ月に一度あるらしい」えくだから、バスは私だけだった…笑
優しい運転手さんは、「この上にもお風呂があるよ。人によっては、その湯の方が良い…という人もいるよ。そこが終点だよ」「帰りの時間は見て行く方が良い」なるほど。お礼を言って、時間を確認。

最終は…十三時〇一分。え？
すごいなあ。この時刻表。もうすぐ十一時。最終まで約二時間ある。

パターゴルフ場を見つけた。コンペかな？パターを持つ

た男性や女性たち、みなさんが楽しそうにボールを
追いかけている。自動販売機でプレー券を購入する
システムらしい。三百十円？安っ！

私はお風呂に入ろう。お風呂も三百十円。

ありや。お風呂も、私だけ？貸し切りだ。私にとって、
一時間が限界。

外の風が気持ち良い。少し歩こう。

歩きながら、まずいかも…と考えている。というのは、
バスの運転手さんから強く注意されたから。

「四〜五日前に、熊が道路を横断していた。本当だよ。
俺、見たから」

最近では、秋田県内あちこちで熊の被害のニュースを聞く。
しかし、私はもう歩き始めた。山には熊だっている
だろう。会ったら、会った時だ。変な理屈をこねな
がら歩く。ひとつのバス停から次のバス停までが長い。
最悪…最終の十三時に乗れなかったら、どうしよう
…熊より気にかかる。自然に足取りは早くなる。あ
〜良かった。間にあった。ピッタリだ。

（人によっては、ギリギリという）

また、貸し切りだ。乗る人もいない。ノンストップで
走るバスに、ひとり揺れる。日本じゃないみたいな、
久しぶりの体験。楽しい…と思うのは私だけか？

ドラマチックな日常

2021 12 / 21

私はあいかわらず好きなように時間を使う。私の時間だから、私の自由に使いたい。あたりまえだ。

お湯の中でのストレッチ。誰もいない、私だけの露天風呂。真っ青な空からチラチラ雪が落ちてくる。サイコーだね。ここで歌うのが気持ち良すぎて、最近カラオケにも行けていない。

大きな声で歌っていたら、

「続けてください」

いつもなら、お昼頃には、私だけになるのに。

その後、彼女は続けた。

「私、秋田県民歌、歌えるんです。熊本出身ですが、秋田に嫁に来て…」秋田の人は、県民歌が本当に好きなんだなあと…改めて思った。と、というか『愛』だ。他の県民にはない特徴だと思う。

「秀丽無比なる鳥海山よ…」こんな難しい歌詞から始まる。みなさん、読めるだろうか。

「しゅうれいむひなるちようかいさんよ…」

秋田では、小学生も歌える。作曲家は、秋田県出身の成田為三

初めてあつたふたりが露天風呂で歌う。

秋田県民歌。

おもしろすぎる。

即決！「プロモーション企画 半額」

2021/9/22

今年六十五歳を迎えた私。この私がどんなことを考え、どのようにして今のような自由気ままな生活を送るようになったのかお話ししたいと思います。

まず、五十八歳で離婚をした。生まれてから二十九年間旧姓、結婚し二十九年間「鈴木」、ちょうど同じ

期間をそれぞれの名前で過ごした。二十九年間姑と同居。離婚のタイミングは長年勤務していた仕事に区切りをつけた時でもあった。仕事を辞めた。私名義のマンションも処分。住むところをなくした。あまり必要と思わなかったから。私には息子と娘がいる。二人の子供たちも成長し、独立しているので私の決断に異存はなかった。

離婚の理由は、ここではあまり重要ではない。よく言われる「価値観の違い」。結婚や離婚はタイミングだと改めて思う。子供達は「なぜお父さんと結婚したのかがわからない」と言う。でも、そのあとに「結婚

してくれなかったら私たちはこの世に生まれていないけどね」と付け加えられ、笑うしかない。元主人は新しい奥様と離婚した年に籍を入れたらしい。これにもびっくりした。私は何の気兼ねもなく、好きなように生きることができる。

一人で世界中の国に旅をするように暮らしたい！

自分の目で見て、そこで食べて飲んで、匂いも音も味も、すべて感じたい。

必要なものは？ そうだ、英語。

一番先に世界中の英語学校を調査。友達の一人はやっぱりアメリカだと言い、また、違う友達はイギリス。

マルタ島は狙い目だとか。コンピューターには本当に多くの情報が溢れていた。どこの国の英語学校が良いか。その中から、一つに絞らなければならない。

何が一番大事？ セキュリティー？ もちろん。だけど、私にとっては？ 安いこと！ 渡航費、授業料、滞在費はいくらなのか？ 他にはどんなことに費用はかかるのか。ほとんどの学校は寮のような安全な場所に滞在でき、食事も提供されていることがわかった。学校によっては、朝食の用意はなかったり、土曜日、日曜日は自由だったり…なるほど…

パソコンとにらめっこの毎日が続く。

そんなある日、

「プロモーション企画 半額」日本人向けの英語学校
スタートにあたって、デモスクールのため、授業料が
半額らしい。レポート提出が必要だったが、問題はな
い。私は学校を決めた。

それはフィリピンのバギオ市にある学校だった。バギ
オがフィリピンのどこにあるのか知らなかった。あま
り重要とは思わなかったから。

その日のうちにスタッフにメールを入れ、入学したい
旨を伝え（ありがたいことにスタッフは日本人。）

次の週には飛行機のチケットを予約した。そのチケッ
トが高いのか安いのかも知らなかった。

当時、私は知らないことが多すぎた。学校を決めた
私は、こうして一步を踏み出す。

女心と秋の空

2020 / 3

英語学校も決まり、入学の手続きを済ませた。日本人のオーナーと何度かメールのやり取りをし、必要な費用も日本の銀行に振り込むだけで、それほど難しくはなかった。

迎えに来てくれるというスタッフとマニラの空港で待ち合わせた。無事にマニラに到着した時はホッとしたが、さてこの広い空港で本当に出会えるのか。不安な面持ちで待つ私に「タクシーはこっちよ」と日本語で誘導する年配のおじさんやおばさん。彼らには私が慣れていないとわかるらしい。あちこちキョロキョロしていると、今度は若いお兄さんが声をかけて来た。

「英語学校のスタッフですが、日本からいらっしゃった生徒さんですか？」

「あゝ良かった。会えた…」

胸のドキドキはやっと止まった。

自己紹介のような当たり障りのない挨拶をお互いにかわし、私は彼に聞いた。

「学校まではどのくらいかかるのですか？」

「えーと、バスでだいたい十時間から十二時間くらいでしょうか」

私は自分の耳を疑った。

「嘘でしょう…」

「そんなに時間がかかるの？なぜ？」

バギオがフィリピンのどこに位置するのか、私は知らなかった。知らないのに、学校を決めてしまっていた。

フィリピンのバスに初めて乗った。バスのチケットはスタッフが購入してくれていた。隣りの人と触れそうなほど狭く、硬くて座り心地の悪いシート。外は雨がしとしと降り、いろんな匂いが混じるバスの中。この状態に十時間以上耐えられるのか。考えても状況は変わらない。早く目をつぶって寝てしまおうと思った。しかし、私にとって、もっと耐えられないことがあった。それは…寒さ。

バスの中のエアコンがどれだけの温度に設定されているのか想像ができないほどに寒い。

スタッフに尋ねると、笑ってこう言った。

「フィリピンは暑いので、ガッツリ冷房を効かせることがサービスだと思っているんです。デパートやレストランもエアコンが効いていますよ」
寒い、寒い、寒い…

ガタガタ震えながら、ひたすら早く着くことを祈った。舗装されているのか疑問に思うほどデコボコな道を、結構なスピードで走る。フィリピン人のドライバーは運転が慣れていると、変な感心をしたものの、すぐに不安の方が勝ってしまった。狭く、くねくね曲がった山道の両側は切り立った崖になっていて、怖くて見

てられない。ガードレールもないその道を、バスはすごいスピードで走る。おしゃべりのキャッチボールは止まった。もう私には、考える余裕も、話す余裕も、聞く余裕もなかった。

早く着いてほしいと思ったばかりなのに、いや、そんなに早く着かなくてもいいから、ゆっくり走って。安全が第一だから。
女心はすぐ変わる。

あとがき

バギオはフィリピン最大の島・ルソン島北部の中心都市。標高千五百メートルの場所にあるバギオは、平均気温が二十度程度で南国のフィリピンとは思えない涼しい気候です。今でもフィリピンの人々にとって憧れの休養地であり、三月から六月までの最も暑い時期になると、大統領や各官庁もマニラからバギオへ移動するので、「夏の首都 (Summer Capital)」とも呼ばれます。

私は、そのバギオで、若者たちに混じって英語の学校に入学しました。毎日の食事は日本で料理を勉強したというフィリピン人のシェフが三食とも用意してくれる、恵まれた環境でした。男性のスタッフの他に、学校には、日本人の女性スタッフもいました。いろんな場面で何度も助けってもらったスタッフの名前は梨恵。オーストラリアに移住して、昨年結婚しました。海外への渡航が可能になったら、私はオーストラリアに行きます。

梨恵に逢いたい。